

平成28年7月7日

## 山岳レスキュー技術検定項目及び内容の変更点

(一社) 日本山岳ガイド協会  
遭難対策委員会



### 初級レスキュー技術チェック項目の変更点

1. レスキューに必要なロープの結びと使い方
  - ダブルデミキャブスタンの結びを追加する。
  - フリクションヒッチ回収技術の項からKシステムを削除する。
2. テラスからの怪我人の降ろし技術（75度程度の斜面）
  - 補助しながら歩いてのカウンターラッペル、背負ってのカウンターラッペル共に採点項目とする。背負ってのカウンターラッペルはENSA方式とする。
3. 怪我人の引き上げ技術（75度程度の斜面）
  - 1/7システムでの引き上げを講習項目から除外する。
4. 懸垂下降トラブルを救助する技術（75度程度の斜面）
  - 懸垂下降時の失敗、トラブル、スタックを別ロープにより救助する技術を採点項目にする。
5. 怪我人の処置、搬送技術
  - ザック担架の項はロープ担架を採点項目に変更し、ザック担架は講習項目とする。

### (変更点の概要)

新たに追加したのは降ろし技術で必要とされる制動効果の高いダブルデミキャブスタンを指導すると共に採点項目に採点項目としている。

また、カウンタラッペル技術を採点項目とした点である。

## 中級レスキュー技術チェック項目の変更点

1. レスキュー器具の使用方法、ロープの結び方、使い方
  - 半マスト結び（デミキャブスタン、ダブルデミキャブスタン）ダブルデミキャブスタンを追加する。
  - フリクションヒッチ回収技術の中でKシステム、桐生システムは削除する。中田システムのみ有効採点とする。
2. あらゆる状況下での支点設置技術
  - アジャスト可能なスリングの使い方を追加する。
3. 垂壁でのカウンターラッペルによる救出技術
  - 小ハングでのKYシステムによる救出を講習項目から検定項目に追加する。
4. 懸垂下降トラブルからの救助
  - 同一ロープでの救出を検定項目に追加する。
5. 怪我人の応急処置、梱包、搬送技術
  - ロープ担架（全身用、半身用）を検定項目とする。
6. 指導方法の項を新たに追加する。

### （変更点の概要）

講習項目となっていた、以前は上級項目であったKYシステム、及び懸垂下降トラブルの同一ロープ下降して救助、ロープ担架等が全て検定項目となった。

検定場所の傾斜については、以前同様に垂壁までとして40m以内で実施するものとした。また、新たに指導方法に付いて追加した。

上級レスキュー技術チェック項目の内容と追加点

※現在研修によって資格を出しているため、検定項目ではなく、研修項目となっている。

1. 器具とロープの使い方

- ①懸垂下降の技術的要点。
- ②降ろしロープの制動効果を高める。
- ③懸垂下降支点回収技術
- ④ネット担架の作成と使用方法
- ⑤ストレッチャーの組み立て、収容
- ⑥カウンターロープ支点の回収技術
- ⑦回収ランナーの設置と回収技術
- ⑧体重差の大きい場合のカウンターラッペル
- ⑨ソロクライム技術

2. 懸垂下降のトラブル救助

- ①上方からトラブルロープを下降して救助
- ②上方から別ロープを使用して救助
- ③下方からトラブルロープを登って救助
- ④下方からトラブルロープを登って救助、E N S A方式
- ⑤シングルロープでトラブルが起こった際の救助方法

3. オーバーハングの救助技術、オーバーハング箇所を降ろす技術

ー 1. 真下に降りると、下のテラスに入り込める場合

- ①オーバーハング宙吊りからの救助
- ②K Yシステムによるランナー回収技術
- ③その他のランナー回収技術

ー 2. 真下に下りても、下のテラスに入り込めない場合

- ①想定される内容と技術について

4. トラバースルートでの救助技術、降ろし技術

5. 指導方法と技術の標準化

6. 机上試験